

# 第1学年1組 国語科学習指導案

指導者 氷川中学校 教諭 木原まゆみ

1. 題材 「蓬莱の玉の枝」―「竹取物語」から― (国語1 光村図書)

2. 題材について

(1) 題材観

本題材は、「竹取物語」から、翁が竹の中から女の子(後のかぐや姫)を得る物語の冒頭場面と、貴公子の中の一人、くらしの皇子の冒険談、そして、かぐや姫昇天後の帝の行動を描いた物語の最後の場面を載せている。全体をまとめ上げる形になっており、かぐや姫の話として、断片的に知っていた生徒たちもおよその全体像をつかむことができるであろう。原文にも三箇所接し、中学生となって初めて古典の文章そのものにふれるという新鮮な喜びを味わうことが出来る。また、原文の訳が上下段に分けた対訳形式で載せられていることで、照らし合わせながら読んで、原文の内容を容易にとらえることが出来ることから、古典学習の入門期にある一年生にふさわしい題材であるといえる。

(2) 系統観 (光村図書)

1年	2年	3年
○古典との出会い 古典の文章に出会い、現代とのつながりを考える。 ・いろは歌 ・蓬莱の玉の枝 ―「竹取物語」から― ・今に生きる言葉	○古典に親しむ 昔の人のものの見方や考え方にふれ、古典に親しむ。 ・枕草子 ・扇的 ―「平家物語」から― ・仁和寺にある法師 ―「徒然草」から― ・漢詩の風景	○古典を楽しむ 昔の人の思いや考え方をとらえ、古典を楽しむ ・古今和歌集 仮名序 ・君待つと一万葉・古今・新古今一 ・夏草 ―「おくのほそ道」から― ・学びて時にこれを習ふ ―「論語」から―

(3) 生徒観 (男子12名、女子10名、合計22名)

事前のアンケート調査の結果は以下の通りである。

○内容について

- ・『かぐや姫』を知っているか。  
知らない(0人)、聞いたことがある(10人)、あらすじが言える(12人)
- ・「あらすじが言える」と答えた生徒について、あらすじを書かせた。書けた内容と人数は、「竹から生まれた」(12人)、「月に帰った」(7人)、「求婚者に難題を出して断った」(4人)、「不死の薬を置いていった」(1人)

○「書く」ことについて

- ・文章を書くことは好きですか。  
**好き(1人)、どちらかと言えば好き(10人)**  
理由…自分の気持ちを書くのは楽しいから。自分を見直せるから。  
書くことではっきりするから。出来事を思い出して書くのは楽しい。
- 嫌い(1人)、どちらかと言えば嫌い(10人)**  
理由…面倒くさい。自分の気持ちとかを書くのが苦手。時間がかかる。字が汚いから。
- ・スクールライフ(生活ノート)の日記欄の記述状況  
出来事だけを書く(4人)・感想や思いも書く(18人)・ほとんど書かない(0人)

(4) 指導観

古典との出会いの単元であるので、まず、音読を繰り返し練習し、古典のリズムや言い回しに慣れさせるようにしたい。そして、表現に沿って登場人物の心情を考えさせ、古人との心のふれあいにつなげるようにしたい。また、登場人物の心情を考える中で、「書く」活動を取り入れ、より深い読みが出来るようにしたい。

3. 研究テーマ(書くこと部会との関連)

【「書くこと」部会テーマ】

書くことを取り入れ、確かな読みの力を育む授業づくり

(1) スキルの獲得「やろう」

- ①言葉に注意して読み、表現のしかたを学ぶために、教材文の視写を継続的に取り入れる。
- ②いろいろな文章の書き方を習得させるために、テーマに合った文章を書く練習を取り入れる。

(2) スキルの駆使「つかおう」

- ①読み取った内容を書くことによって確かなものにし、さらに深い読みへとつなげていけるようにする。
- ②テーマを身近な問題にすることで、書く意欲を喚起する。
- ③個人で考えて書いた後で、グループで話し合って書く活動を取り入れ、お互いの考えを深めあえるようにする。

(3) スキルの深まり「しろう」

- ①書いた文章を相互評価し合う場を設け、新しい発見を読み取りや表現に生かせるようにする。
- ②自らの思考の過程がわかるようなワークシートを工夫する。

4. 学習指導の目標

- ◎現代につながる古人の思いに気づき、古典に親しもうとする態度を育てる。
- 古文の仮名遣いや言葉遣い、古語の意味に注意して、物語の展開、あらすじを理解させる。(C-ア)
- 登場人物たちの思いや行動について考え、手紙などの文章にまとめながら、現代と重ね、比較して、とらえさせる。(C-オ) (B-ウ、オ)

5. 指導と評価の計画 (6時間取り扱い)

時	学習活動	評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冒頭部分を繰り返し音読し、古文のリズムに親しむ。</li> <li>・子どもを授かった翁たちの気持ちを考える。</li> </ul>	《関心・意欲・態度》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の文章に出会い、言葉遣いや仮名遣いの違い、古文のもつリズムなどに興味や関心をもち、すすんで古文を読もうとしている。</li> <li>・古人のものの見方や考え方に触れ、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・学習シート</li> </ul>
2 本時 (1/2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くらの皇子の思いや行動について考える。</li> <li>・架空の冒険談を読み取る。</li> </ul>	《話す・聞く能力》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「竹取物語」の登場人物の言動や、ものの見方や考え方について、話し合う中で自分の考えを深めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・学習シート</li> </ul>
		《書く能力》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「竹取物語」の登場人物の言動や、ものの見方や考え方について、自分の考えを文章にまとめている。</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かぐや姫の昇天から最後までを読み取り、登場人物それぞれの思いや行動について考える。</li> </ul>	《読む能力》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・古文の仮名遣いや文末の言葉の違い、現代では使われない言葉や意味の違いに注意して音読・朗読している。</li> <li>・現代語訳や脚注などをもとに話の内容のあらましをとらえている。</li> <li>・「竹取物語」に表れている古人のものの見方や考え方を読み取り、それに対する自分の考えをまとめ、ものの見方や考え方を広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・学習シート</li> <li>・ノート</li> </ul>
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体を読み返し、歴史的仮名遣いや言葉遣いについて確かめる。</li> <li>・「蓬萊の玉の枝」の感想を交換し合う。</li> </ul>	《言語事項》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的仮名遣いや、古語と現代語の意味の違いについて理解している。</li> <li>・古文のリズムを感じて音読している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観察</li> <li>・学習シート</li> <li>・ノート</li> </ul>

6. 本時の学習

(1) 本時の目標 (2/6)

- くらの皇子の思いや行動について読み取り、現代に通じるところはないかを考えることが出来る。

(2) 評価

評価項目	評価基準	つまずきへの手だて
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の思いや行動の中で、現代と通じ合うことがあることに気づいている。(B)</li> <li>・登場人物の思いや行動の中で、現代と通じ合うことと通じ合わないことを明確に分析し、考えをまとめようとしている。(A)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の状況を現代に置き換えて考えてみるようにさせる。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の行動や思いを読み取り、そこからどんな人物かを考え、自分の感じたことをテーマに沿って文章に書いている。(B)</li> <li>・登場人物の行動や思いを読み取り、そこからどんな人物かを考え、現代人のものの見方や考え方と比較して、自分の感じたことをテーマに沿って文章に書いている。(A)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに沿った例文の形を示し、言葉を入れさせる。</li> <li>・グループ内でアドバイスし合う。</li> </ul>

展開

過程	能力	形態	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応
導入 5分	徹底	一斉	冒の部分を一斉に読み、前時を振り返る。  本時の目標を知る。  <b>目標 登場人物の思いや行動について考えよう。</b>	
展開 40分	能動	二人	現代文で書かれた部分の範読を聞き、くらしの皇子がどんなことをしたかを近くの人と話し合う。 ○中心人物は誰か。 ○くらしの皇子はどんなことをしているか。	○ の生徒と話し合いをして、くらしの皇子が中心人物であることを確認する。
	能動	班	くらしの皇子のかぐや姫獲得計画書を作成する。班で話し合い、箇条書きで書き出す。  <b>「かねての計画どおり」とあるけれど、くらしの皇子はどんな計画を立てていたのだろう。</b>	○いったん船出するが、すぐに引き返す。 ○人目につかぬ家に閉じこもってにせ物を作る。 ○腕のいい匠たちをめる。 ○匠たちと寝を共にする。
	能動	個人	発表を聞き、くらしの皇子の行動について現代と通じることを書く。  <b>くらしの皇子の行動の中で今も同じだなあと思うところをさがしてみよう。</b>	○好きな人のためなら一生懸命。 ○嘘をつく。
	能動	班	班でお互いの書いたものを読み合い、意見交換する。	○友達の書いた文章を読んで、感想や意見を伝え合う。
まとめ 分	能動	個人	今日の学習を振り返る。	

教師の支援	評価 評価方法	備考
●挨拶の後、全員で声を合わせて読ませる。	○歴史的仮名遣いや文末の言葉の違いに注意して読んでいる。 観察	
●手がかりとなる言葉をチェックしながら聞くようにさせる。  ●箇条書きであげたことに対して、なぜそのようにしたのかも考えさせる。  ●友達の発表を聞き、新たな発見はメモするように伝える。 制限時間内で書くように指示し、しい生徒には、補助シートを提示する。  ●同じように思ったことや違うなあと思ったことを伝え合うようにさせる。	○くらもちの皇子についてまとめている。 観察・学習シート  ○班で話し合い、短冊に計画を書いている。 観察・短冊・学習シート  ○現代と比べて、書いている。 学習シート  ○読み合って、意見交換している。 観察	学習シート  短冊 学習シート  学習シート
	○今日の学習を振り返ることができたか。(評価	評価カード